

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

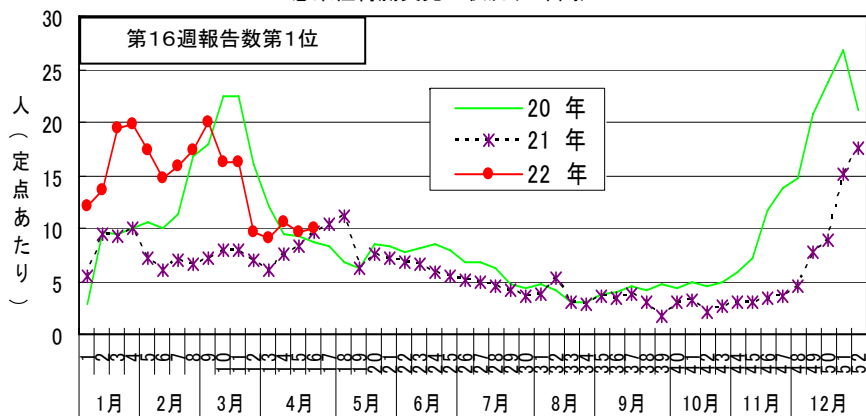
平成22年4月19日（月）～4月25日（日）〔平成22年第16週〕の感染症発生状況

第16週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘となっています。

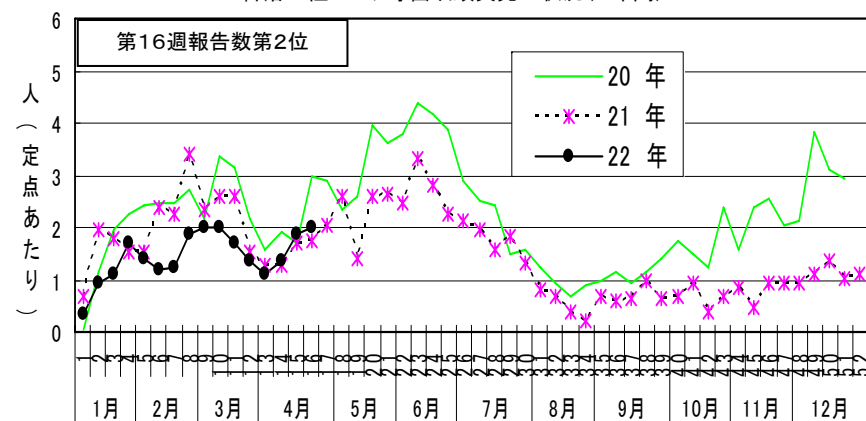
感染性胃腸炎が定点あたり10.09人と前週（9.69人）に比較して患者数は増加し、5週連続で患者数は横ばい状態が続いております。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点あたり2.00人で前週（1.88人）に比較して患者数は増加しました。

麻疹の届出が1件（推定感染原因：飛沫・飛沫核感染、推定感染地域：川崎市、年齢群：5歳、ワクチン接種歴：有）ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## ～海外旅行で気をつけたい感染症（動物編）～

もうすぐゴールデンウィークがやってきます。海外旅行を計画している方も多いと思います。先週は海外で気をつけたい「食べ物編」を御紹介しました。そこで今回は海外で気をつけたい「動物編」を御紹介したいと思います。海外では日本でみられない動物と多く出会うことがあると思いますが、逆に日本でみられない感染症を持っている可能性もあります。

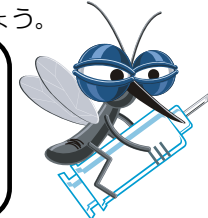
海外で感染症にかからないためには、感染症に対する正しい知識を身につけることが重要です。動物からうつる病気には、狂犬病・鳥インフルエンザ（インフルエンザH5N1等）・デング熱・マラリアなどがあります。一般的な注意点をあげますので海外で注意してください。

- ①狂犬病：野生動物にはむやみに手を出さない。犬や猫などをむやみに触らない。（噛みつかれると危険です！）
- ②鳥インフルエンザ：流行地では鳥に不用意に触らず、また近寄らないようにしましょう。また、旅行先での手洗い・うがいも大切な対策です。
- ③デング熱・マラリア：蚊に刺されることによって感染します。流行地へ旅行される際には、長袖の服の着用や防虫スプレーを使用して蚊に刺されないようにしましょう。

流行地でこれら動物に噛まれたら、すぐに治療を受ける。（狂犬病を接種し、傷口を消毒する）



今年もベトナムやエジプトなどで鳥インフルエンザ（H5N1）の人への感染事例が報告されています。鳥インフルエンザ（H5N1）は、病原性の高いウイルス感染症ですので注意しましょう。



### 病気の潜伏期について

病気には、潜伏期があり、感染してもすぐには発病しません。日本で一般的な病気で潜伏期の長いものは多くはありませんが、熱帯を中心として海外には潜伏期間の長い疾患が数多くあります。

このような海外の病気は通常日本には存在しないので、具合が悪いからと医療機関で受診しても、医師は外国で感染した病気には思いが至らず、診断が遅れ、それが命に関わることも考えられます。

従って、海外旅行から戻った後2ヶ月程度は、体調に異常があれば早めに医療機関を受診し、海外へ行って来たことを必ず医師に告げた上で相談をしてください。

海外渡航する際の予防接種には二つの目的があります。それは『①海外で感染症を予防するため ②入国時等に予防接種済証明書を要求する国があるため』です。

また、一種類のワクチンでも数回（2～3回）接種する必要があるものもあります。海外への旅行を思い立ったら早い時点で（できるだけ出発3か月以上前から）、予防接種機関や検疫所で、接種するワクチンの種類と接種日程の相談をしてください。

